現代の福祉や個人化現象を社会学的に分析する

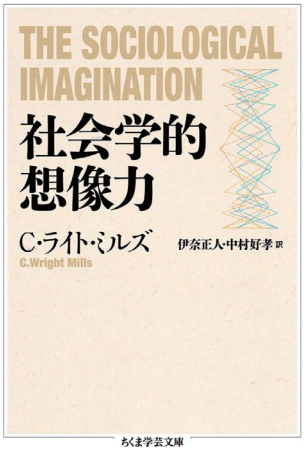
関連するSDGsの国際目標

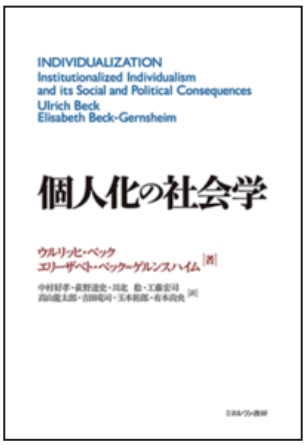
人間文化学部　人間関係学科　　講師　　中村　好孝
研究分野：社会学史、福祉社会学

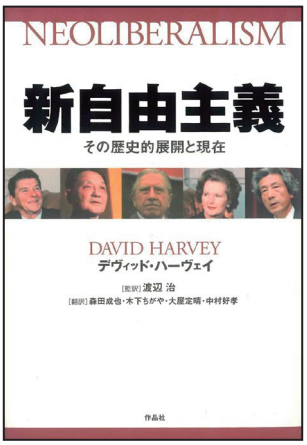
社会学のこれまでの知見を生かして、現代社会の問題について研究しています。特に障害者福祉や地域福祉、社会的ひきこもり、アサーティブ・コミュニケーションに注目しています。

■ 社会学史

社会学の歴史や社会科学の理論について研究してきて、主に学術書の翻訳にたずさわってきました。私たちの人生と社会がどのようにつながっているのか（ミルズ『社会学的想像力』）、個人化という現代社会の趨勢は何をもたらすのか（ベック『個人化の社会学』）、資本主義のなかで私たちの生活はどうなっていて何ができるのか、そこで場所・空間はどのように影響しているのか（D・ハーヴェイの『新自由主義』などの一連の著作）などのテーマについて、社会学や社会科学は色々な知見をもたらしてきたと考えています。







■ 福祉社会学

福祉とくにソーシャルワークは、直接援助だけでなく、社会がこう変わらねばならないということも考えて活動します。車椅子を押すのも大切ですが、駅にエレベーターを設置するよう運動するのも大切です。このように福祉と社会学はもともと相性が良く、福祉について知るために精神保健福祉士（PSW）の資格をとりました。

現在の学問的な関心は障害者福祉や医療の歴史にありますが、以前は精神障害者福祉や精神医療、高齢者福祉の現場で、フィールド調査を行ったり働いたりしていました。それらのそもそもの出発点は社会的ひきこもりについての社会学的なフィールドワークです。

また地域福祉については、自治体の障害者福祉推進会議などの委員として関わっています。

■ アサーティブ・トレーニング

個人として様々な人と一緒に生きる現代社会では、私的な生活でも職場などでも、コミュニケーションの悩みはつきません。それについて興味深い試みとして、現在、福祉や教育、企業研修などにも取り入れられているアサーティブ・コミュニケーションに注目しています。アサーティブ・トレーニングのトレーナーとしての訓練を受け、NPO法人の会員として関わっています。